吉田公園の南端から海側に抜けるなだらかな勾配の坂を上ると高さ10㍍の防潮堤の上に出ます。心地よい海風を頬に受けながら駿河湾を一望すれば、しばし日々の慌ただしさを忘れ、岸に打ち寄せて砕け白く泡立つ波のかなたに果てしなく続く太平洋の海原に見入ります。そして身体の向きを変え、駿河湾を左手に一人静かにもの思いにふけり、あるいは恋人、友人、家族と楽しい会話を交わしながら西に伸びる丘の上をゆったりと港の東防波堤に向かって歩けば、そこにはにぎわいに溢れた広場が広がります。人々は芝生の張られた広場で楽しそうな笑い声をあげながらいろいろな遊びに戯れたり、その先に設けられた多目的広場で水揚げされたばかりの新鮮な生シラスを炊きたてのご飯にのせて食べたり、とれたての養殖ワカメをしゃぶしゃぶにして食べたり―海鮮料理に舌鼓を打っています。

町長からのメッセージ 122

シー・ガーデン構想（海浜公園構想）

シー・ガーデンの誕生

この吉田公園の南の端から前浜の多目的広場まで伸びる海浜回廊を核としたシー・ガーデン構想、すなわち海浜公園の構想は防災の基盤の上に水産業の振興と観光の華を咲かせようとするものであり、東日本大震災で危急存亡の崖っぷちに立たされた本町のピンチをチャンスに換える思考の中から生まれたものです。本町の津波防災まちづくりは、これまでに何度もお話ししましたように「最善に期待し、最悪に備える」といった有事に対処する原則にのっとり「住民の命を守る対策」と「住民の財産や企業の生産活動を守る対策」の2つから成り立っています。

「住民の命を守る対策」は、津波避難タワーの建設、富士見幹線や住吉幹線などの避難路の整備、防災機能を保持したすみれ保育園の改築、被災時の仮設住宅用地としての防災公園、被災者の生活支援拠点としての防災センターの建設、被災時防災拠点施設としての中央公民館の耐震改修などをもっておおむね終わるものと考えています。

「住民の財産や企業の生産活動を守る対策」は、漁港を含めた海岸線において押し寄せる津波を阻止するために大井川の堤防や防潮堤をかさ上げし、漁港施設の津波対策の一環としての多目的広場を建設するといったハード整備であり、1日も速い早期の事業化を求めてこれまで国に強力に働き掛けてきました。この堤防や防潮堤のかさ上げと多目的広場の建設の先に海浜回廊を核としたシー・ガーデン構想が誕生したのです。

防潮堤のかさ上げと多目的広場の事業化

まず防潮堤のかさ上げですが、本年度末までに本町の海岸において南海トラフ巨大地震によって発生する津波の予測値約9㍍（以後L2クラス）の津波被害を軽減するための海岸整備について、防潮堤の整備を前提とした検討の場が国交省によって設けられる運びとなりました。国に対するこれまでの働きかけがようやく功を奏し、関係者の皆さまのご理解を得て防潮堤の整備が具体的な日程に上がるまでになった次第です。具体的に言えば、防潮堤整備は国交省から財務省に予算要求が行われる運びとなり、予算が通れば事業に着手するといった事業化の見通しがついたという訳です。

平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、平成25年度末までの3年間で「住民の命を守る対策」を急速に進め、本年度末には「住民の財産や企業の生産活動を守る対策」の実現に向け、防潮堤のかさ上げや漁港の津波対策の強化などの諸事業の事業化の確かな見通しが得られました。

東日本大震災の被災地以外では始めて、国による新たな防潮堤の整備が本町で行われる見通しとなりました。町民の皆さまに『新たな防潮堤の整備がいよいよ始まります』と報告できる日が間近に迫ったことを嬉しく思うとともに、町民の皆さまとともにこの喜びを分かち合いたいと思います。

新たに整備する防潮堤は、L2クラスに備える高さを持ち、押し寄せる津波を阻止できるものでなければなりません。そのためかなりの強度が必要となりますので、防潮堤の底辺の幅も現在の防潮堤よりも幅広なものとなることが予想されます。この防潮堤の設計については、近く設けられる検討の場で話し合われるのではないかと考えています。

次に多目的広場の建設ですが、当初は旧中山三星建材㈱跡地に進出したヤマザキ㈱の前に広がる前浜に防潮堤が築かれていないことから、防潮堤建設のみを考えられていたものです。しかしながら国に対する働き掛けの過程で単なる防潮堤の建設から本町の水産業振興と新たなにぎわいの場の創出といった方向に話が広がり、観光の色彩が加えられることになりました。水産業の振興をうたって今年も開催された『生シラスの販売』のような一過性の催しではなく、継続的に水産業を振興するとともににぎわいを創り出し、観光の拠点を創り出す企画が持ち上がったという次第です。

本町の水産業も後継者不足の問題が加わり、先細りする傾向が見られますが、水産業の振興を図るためには戦術的な一過性の催しではなく、人々が楽しい時間を過ごすための集まる場を設けることが必要です。集まった人々が高台で海を眺めながらシラスやワカメなどを使った海鮮料理をゆったりとした雰囲気の中でワインなどを傍らに談笑しながら味わう、そんな仕掛けが現実味を帯び始めたことから、多目的広場の構想は戦略性を持った企画に大きく膨らみました。

この多目的広場の建設については、平成27年度の当初予算に調査費が計上されています。この調査の結果をもとに平成28年度から建設に着手したいと考えています。もちろん国や県から補助金をいただきながら事業を進めていく予定です。新たな防潮堤の整備も前浜の多目的広場の建設と並行して、出来るだけ速やかに建設に着手していただければ有り難いと願っています。

今、私たちは津波防災まちづくりのハード整備の最終局面を迎えると同時に、本町にはこれまでの本町の成り立ちから乏しかった拠点となる大きな観光資源が生み出される歴史的な瞬間に立ち会おうとしています。

新たなまちの姿を求めて

先月号でこのまちの成り立ちとそれに伴ったまちづくりの一端に触れ、どうしてこのまちには観光的な色彩を持った資源が少ないのか考えてみました。このまちのまちづくりを担った私たちの先人は大井川の河原を一歩一歩東に向かって開拓し、人々が住める宅地に、あるいは農作業の出来る農地へと切り拓いてきたのであり、心を癒し魅了するような場所を大々的に創り出そうとするまでの余裕は持ち合わせていなかったのではないでしょうか。

しかしながら、今このまちは東日本大震災を奇貨として人々の心を癒し魅了する観光資源の創出に手が届くところまでたどり着こうとしています。吉田公園と長い防潮堤の上に築かれる海浜回廊と前浜に姿を現す多目的広場から成るシー・ガーデン（海浜公園）といった自前の観光資源を手に入れようとしています。

平成28年3月末には、東名高速道路の吉田インターチェンジから県道島田・吉田バイパスを通り、国道150号を横切って東名川尻幹線を一直線に南に下れば榛南幹線と交差し、その先は川尻海岸の防潮堤までつながります。月が変わって平成28年度になれば、防潮堤の工事にも多目的広場の工事にも着手されるめどが立つのではないかと期待しています。

目を閉じれば、脳裏に浮かび上がるシー・ガーデンの核となる海浜回廊は多目的広場で終わらず、完成の暁にはもっともっと西に伸びて坂口谷川まで到達しています。東防波堤と西防波堤の間は鋼鉄のワイヤーロープで編まれた吊り橋が掛かり、夜ともなれば小さなレインボーブリッジのように支柱と支柱はランタンの灯が輝き、人々の心を夢の国に誘うでしょう。昼にはジョギングをしたり、散歩をしたり、たたずんで海を眺めたり…人々は思い思いの夢を多目的広場を含めた海浜回廊に結ぶでしょう。